

ホップ♪ステップ♪のとがわ

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会

平成 29 年度自主防災活動成果発表会

日時： 平成 29 年 12 月 16 日(土) 9:30~11:30

会場： 能登川コミュニティセンター ホール

次第： ・ 台風から学ぶ



平成 29 年 台風 5 号、21 号、22 号

安全・安心事業部

- ・ 自治会の防災活動事例発表（安否確認訓練）



伊庭町自治会

佐野自治会

栗見出在家町自治会

タオル方式の安否訓練

- ・ 次年度の取り組み提案

安全・安心事業部



主催： 一般社団法人能登川地区まちづくり協議会

お問合せ：一般社団法人能登川地区まちづくり協議会 安全安心事業部

☎050-5802-2793(まち協事務所)担当：今井陸之助

090-2288-8663 (今井 携帯)

Email: notomatikyo.imai@e-omi.ne.jp



本事業は「防災教育チャレンジプラン」の助成を受けています

ホップステップのどがわ

平成29年度活動成果発表会

H29/12/16(土) 9:30~11:30

能登川コミュニティセンター

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会
安全・安心事業部



次第

- ・台風から学ぶ
 - ・平成29年 台風5号、21号、22号
- ・自治会の防災活動事例発表(安否確認訓練)
 - ・伊庭自治会
 - ・佐野自治会
 - ・粟見出在家町自治会
 - ・タオル方式の安否確認
- ・次年度の取り組み提案



ホップステップのどがわ

台風から学ぶ

台風5号 8月 7~ 8日

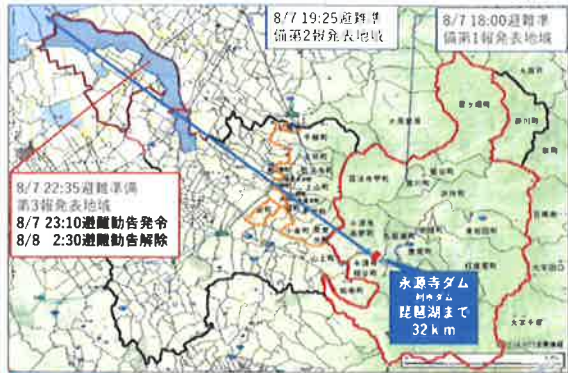
21号 10月22~23日

22号 10月28~29日



ホップステップのどがわ

台風5号 8/7~8 避難情報発令地域



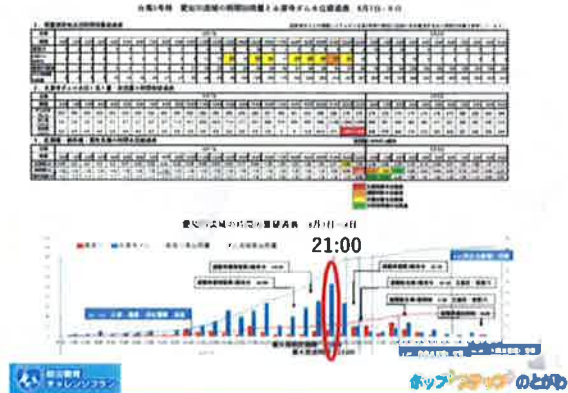
ホップステップのどがわ

台風5号「避難勧告」発令地域(愛知川流域自治会)



ホップステップのどがわ

台風5号 能登川地区と永源寺ダム流域平均の降雨量



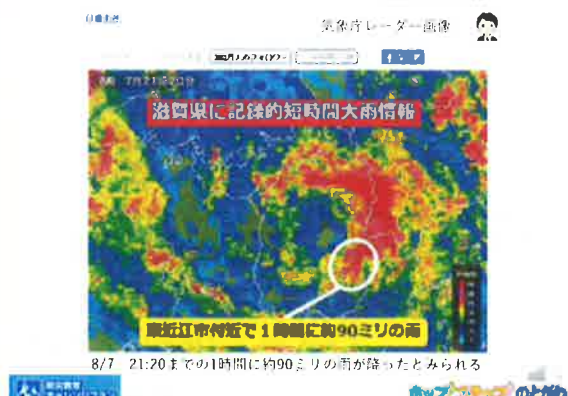
ホップステップのどがわ

台風5号 永源寺ダム貯水位・流入・放流量と御幸橋水位



ホップステップのどがわ

台風5号 遊賀県記録的短時間大雨情報



ホップステップのどがわ

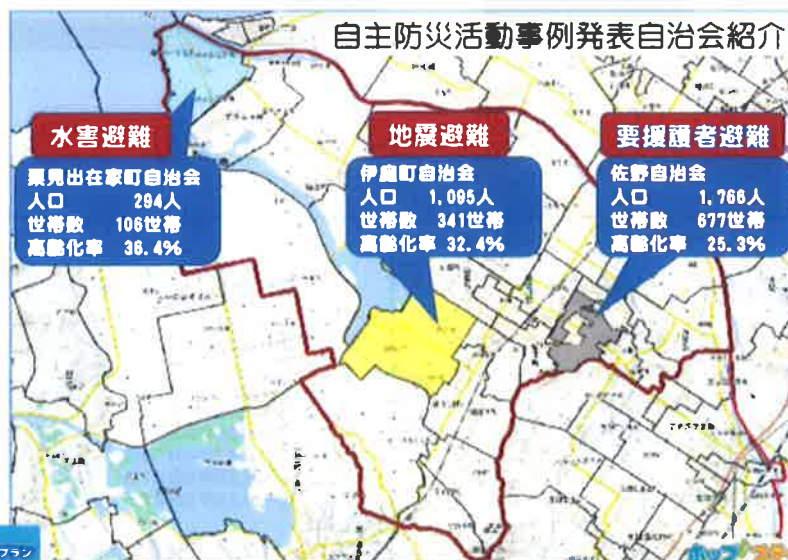
平成29年度 自主防災活動事例発表

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会



事例紹介自治会

- ・伊庭町自治会
琵琶湖西岸断層地震を想定した安否確認訓練
- ・佐野自治会
はじめての全住民対象防災訓練
- ・栗見出在家町自治会
台風・水害を想定した避難訓練
- ・タオルで安否確認
タオルを使った安否確認訓練



平成29年度「自主防災活動成果発表会」事例発表

伊庭町防災避難訓練

東近江市伊庭町自治会

1. 伊庭町紹介

伊庭町の位置と人員構成



みずべ さと 湖辺の郷伊庭景観形成地区 水辺景観で日本遺産(平成27年4月)



伊庭の坂下し祭り

お興上げ

坂下し



2. 防災訓練のとりのくみ

第1回防災訓練開催までの経過

- 平成21年5月 自主防災組織を設置
- 7月 災害時避難連絡網の作成
災害時一時集合場所決定
各戸に防災ヘルメット配布
- 9月 住民説明会
- 9月 防災訓練開催

自主防災避難訓練開催実績

- ①平成21年9月27日
- ②平成22年9月26日
- ③平成23年9月25日
- ④平成24年9月23日
- ⑤平成25年9月28日
- ⑥平成26年8月31日
- ⑦平成27年8月30日
- ⑧平成28年8月21日
- ⑨平成29年8月27日

主な訓練内容は「地震災害」を想定した避難訓練及び安否確認と消火器による消火訓練、消火栓放水訓練、担架搬送、炊き出し訓練、AED体験、車椅子体験、応急手当訓練など各種訓練を年度により組み合わせを変えて実施



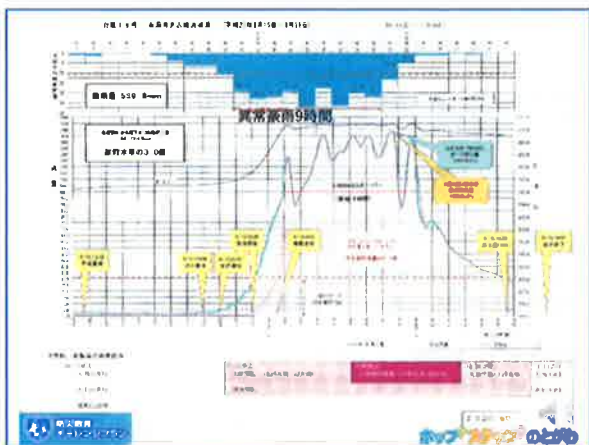
永源寺ダムは農業用水の安定供給のためにつくられました

- 農業用水の供給と発電が目的の利水専用ダムです。洪水調節機能はありません。
- 農業用水としては不安定な水源であった愛知川の両岸に広がる湖東平野およそ6,900haの水田に、農業用水を安定的供給することが目的です。
- 昭和27年に計画され、昭和47年に完成しました。
- 発電能力：5,000kw/hを備えています。



永源寺ダム 洪水最大放流量 一覧

番号	年	最大放流量	最大流入量	最大	最大流入量	計画 (1時間平均)	備考		
1	昭和27	0.1677.000	1.455.9	0.021.040	6.426.0	550	55.0	1.000.000	計
2	H 2	0.7010.000	1.481.4	0.019.970	1.427.6	455	45.2	0.970.000	計
3	H 8	0.3010.100	1.285.4	0.019.970	1.426.6	328	55.1	0.970.000	計
4	H 1	0.27110.200	1.180.6	0.017.000	1.333.7	330	55.7	0.970.000	計
5	昭和31	0.1017.200	0.97.0	0.014.000	1.172.0	300	48.2	0.970.000	計
6	昭和35	7.111.000	9.6.6	0.014.000	1.065.5	716	48.9	0.970.000	計
7	H16	6.21115.151	0.70.0	0.014.000	1.046.3	728	41.0	0.970.000	計
8	H16	10.20118.451	0.10.0	0.014.000	1.774.9	312	57.5	0.970.000	計
9	昭和37	7.1017.200	0.60.5	0.014.000	0.96.5	410	31.7	0.970.000	計
10	H12	8.2213.000	0.81.6	0.014.000	1.114.0	474	30.5	0.970.000	計
11	昭和38	0.7120.201	0.12.3	0.014.000	6.43.7	337	30.2	0.970.000	計
12	昭和37	8.213.000	0.26.5	0.014.000	0.00.0	349	24.0	0.970.000	計
13	昭和38	0.1010.000	0.4.7	0.014.000	0.12.2	470	43.0	0.970.000	計
14	昭和38	0.1010.000	0.00.0	0.014.000	0.00.0	400	30.7	0.970.000	計
15	昭和38	1.012.000.300	0.00.4	0.014.000	0.000.0	7.30	45.2	0.970.000	計

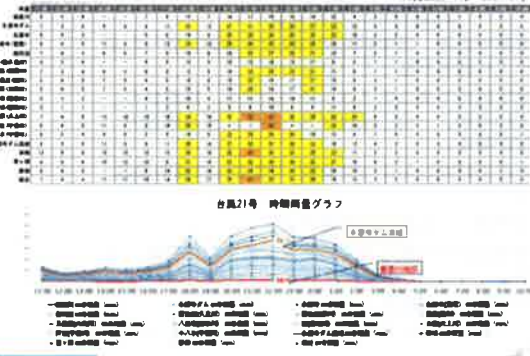


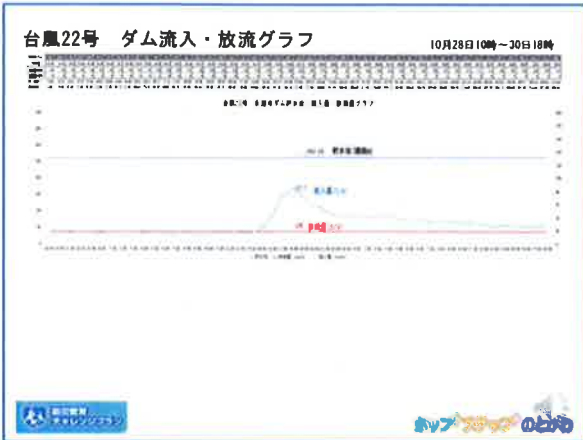
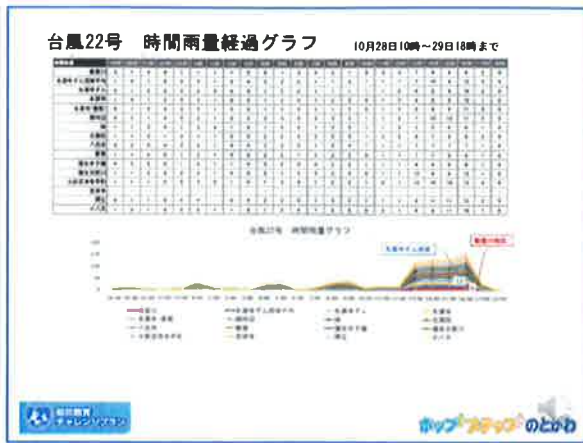
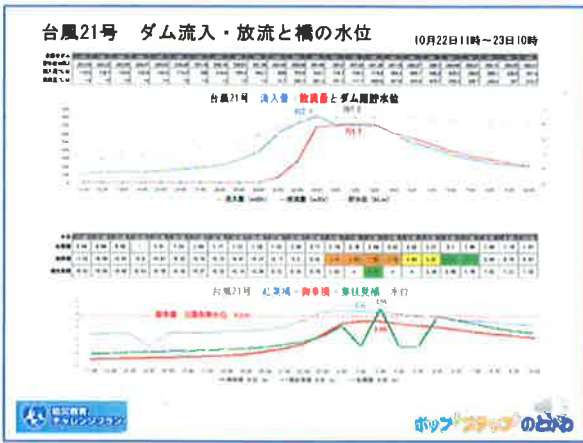
台風5号から

1. 鈴鹿の大雨は、2時間で御幸橋まで降りて来る
 1. 降雨から1時間で永源寺ダム湖に流入し
 2. 放流水は1時間で御幸橋に到達する
2. 永源寺ダムは、
 1. ダム湖の水位が標高263m以上にならないと放流できない
 2. ダム湖の壁面は標高273mが限界である
 3. ダム湖の貯水量は約2,200万tである
3. ダムの放流口は最大で252㎡である
 1. 今回の最大流入量は1,542t/秒 (555万t/時間)
 2. 最大放流量は1,465t/秒 (527万t/時間)であった
4. 愛知川の計画水量は2,400t/秒とされている



台風21号 時間雨量経過グラフ





台風から学ぶ

台風5号 8月 7～8日
高齢者の
夜間避難対策

21号 10月22～23日
強風対策

22号 10月28～29日

台風から学ぶ

(自治会アンケートからのご意見)

- ・避難勧告発令の後、指定避難所の状況を確認に行ったが、まだ受け入れ態勢が整っていなかった。
- ・愛知川最下流の中洲にある灌木等の撤去を、以前から依頼しているが、一向に進展が見られず、ダム放流の度に不安が募る。
- ・高齢者の夜間移動はかえって危険。2階等への高所避難を提案したい。
- ・深夜に全家庭への連絡は困難極まる。
- ・集会所が自治会内で最も低く、防災役員等の待機所にもできない。
- ・自治会の集会所を避難所として認められないか？
- ・車椅子ごと載せられる自動車を自治会は持っていない。

台風から学ぶ

(自治会アンケートからのご意見)

- ・避難勧告発令の後、指定避難所の状況を確認に行ったが、まだ受け入れ態勢が整っていなかった。
- ・愛知川最下流の中洲にある灌木等の撤去を、以前から依頼しているが、一向に進展が見られず、ダム放流の度に不安が募る。
- ・高齢者の夜間移動はかえって危険。2階等への高所避難を提案したい。
- ・深夜に全家庭への連絡は困難極まる。
- ・集会所が自治会内で最も低く、防災役員等の待機所にもできない。
- ・自治会の集会所を避難所として認められないか？
- ・車椅子ごと載せられる自動車を自治会は持っていない。

平成29年度防災避難訓練

本年度の目的・・・災害時にける全自治会員の自主訓練・避難と
安否確認及び「東海地区避難行難者支援者避難制度」の実施体験

避難訓練

- ①訓練放送(IP放送 屋外用拡声器) 各家庭で自主訓練
- ②自力で避難できる人は一時集合場所で安否確認(組長)
- ③ちよ・ボラ委員は要支援者宅を訪問して安否確認と避難の補助
- ④一時集合場所で全員の確認
- ⑤組長、ちよ・ボラ委員、各組代表2名は
謹節館(災害対策本部)へ
- ⑥組長⇒町世話⇒本部情報班の流れで
集計を報告
- ⑦情報班長は集計を災害対策本部に報告
(避難訓練完了)291世帯855名



おとろ

各種訓練

各団体・住民有志による



①消火器消火訓練

②消火栓放水

⑤出前講座

③可搬式ポンプ放水訓練

④炊き出し訓練

◇避難訓練後の感想・反省

- ◆ 出前講座を聞いて意識が高まった。
- ◆ 自主訓練を取り入れたのは良かった。
- ◆ 避難時に何をすべきかを理解しておけば実際に起こった時に安心である。
- ◆ 放送時間を予告しない方がもっとリアルである。
- ◆ 災害内容に応じた避難場所の設定が必要である。
- ◆ 集計用の記入方法が理解できなかった。

おとろ

◆今後の課題

- 要支援者の支援時に車椅子などの補助具やAEDの設置が必要となるので、自治会で保管しておくことが重要である。
- 実際に発生した時の最終避難場所や移動方法を自治会全員が理解する勉強会の設定。
- 地震発生だけでなく大雨の時のシミュレーションも必要である。
- Jアラートの対応。指示があった場合の行動。
- 炊き出し場所を既設の厨房を使用しているが、災害時を想定した調理場所が必要である。

おとろ

おわり

ご清聴ありがとうございました

おとろ

佐野自治会の防災訓練報告



平成29年9月10日
佐野自治会自主防災避難訓練実施

佐野自治会の紹介

明治27年に各村と合併して五峰村となり、昭和17年には、**五峰村**、**八幡村**、**能登川村**、**伊庭村**、**栗見村**と合併し能登川町佐野に、東近江市と合併し東近江市佐野町になりました。

佐野町は昭和40年代に入り宅地開発が進み、人口の増加に伴い行政区が追加されていきました。

現在では佐野地先では
佐野・能登川栄町・南佐野・東佐野・堀切・緑が丘・大地
パークシティ・イーストロード・桜ヶ丘・早刈
11箇所の自治会があります。

【自治会状況】
規模：677世帯 1,766名
高齢化率：25.3%

佐野自警団

- 自警団の設立年は不明です。「水利係五峰村消防組」の旗が倉庫に保管されていることから能登川町以前(昭和17年)より活動をしていたことがわかりました。若手の入団者の確保が難しく、高齢化が悩みとなっています。

佐野自警団員 30名
市消防団員登録 7名
自警団員 23名



ポンプ側面に昭和33年10月修理と書かれている。五峰村から引継がれてきたことが判る。

佐野自治会自主防災会

- 設立：平成21年9月1日
- 活動目的：住民の隣保協同の精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、地域の地震、風水害、火災等による災害の被害の防止及び軽減を図ることを目的とする。
- 組織図



自主防災避難訓練の計画

自警団役員、自治会執行部で実施内容を詰める

- ★自警団員指導により放水訓練、消火器取扱い訓練は実施してきましたが、避難訓練は初めての計画でした。実施に向けての打合せを何度も行いました。

- 1、訓練の目的
- 2、実施の月日
- 3、訓練場所
- 4、災害の想定
- 5、訓練に参加する対象範囲
- 6、訓練の内容
- 7、訓練までのスケジュール
- 8、評議員会での説明と参加要請
- 9、組長会での説明と参加要請

防災訓練実施要領

計画内容を実施結果と合わせて報告いたします

1、訓練の目的

東近江市では、鈴鹿西縁断層帯地震、琵琶湖西岸断層帯地震の発生が想定され、これらの発生により震度6以上になると想定されています。

このような状況で、今回は地震による災害発生を想定した模擬防災訓練を実施します。

住民が安全に避難できるよう、一時集合場所への集合と、公民館への避難誘導を行います。公民館では初期消火訓練、救急救命訓練、炊出し訓練などに参加して頂き、各自の役割の行動ができるか訓練と確認を行います。

2. 実施日時

平成29年9月10日午前10時～12時

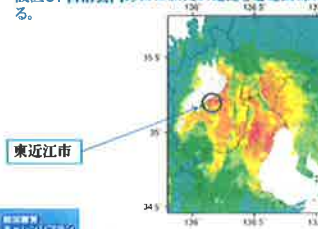
3. 訓練場所

- ★佐野自治会公民館
- ★法堂寺遺跡公園
- ★NPO法人かじや館



4. 災害の想定

午前10時分に、鈴鹿西縁断層帯による直下型地震発生。東近江市で最大震度6強の非常に強い揺れに見まわれ、地区内では建物崩壊や火災が発生し甚大な被害が発生している。
自治会長は自主防災会組織を立ち上げ、佐野公民館に災害対策本部を設置し、自治会内の被害状況の確認と避難誘導及び初期対応を指示する。



5-1. 訓練趣旨・規模・内容等の再検討

(疑問、本当に出来るの?)

1. 自治会員のほとんどが、自主防災会の組織や内容を知らないのが実態であり、この規模の訓練が出来るのか?
2. 避難所の小学校が近いのに何故、一時集合場所の公民館に集まるのか?
3. 一時集合場所の見直しが必要では?
4. 組長全員で行うのは無理があるのでは、人数を絞る必要はないか?
5. 一時集合場所から、佐野公民館への避難状況確認であれば、関係団体と役員の訓練が現実的では?

【まとめ】

関係団体と役員で、自主防災会のそれぞれの役割を確認できる訓練をする。公民館に災害対策本部を設置運営する訓練を行う。



5-2. 訓練に参加する対象範囲を決める

役 職 名	対象人数	実 績
執行部	4	4
・評議員	12	56
・組長	36	(内子供6名)
・ネットワーク	9	
自警団員	30	22
いきいきサロン	15	13
児童民生委員	3	2
消防署員	—	2
避難参加者合計	109	
一般会員見学者	40	15
参加者総計	約 150	114



6. 訓練の内容

- ①災害対策本部設置
- ②避難誘導訓練
- ③初期消火訓練
(自警団員のポンプ操法見学、水消火器の訓練)
- ④炊出し訓練
- ⑤救急救命訓練の受講
(消防署員の指導で、救急救命・AED取り扱いの指導)



7. 訓練当日のタイムスケジュール

訓練項目	8	9	10	11	12
ビニール交換			10:00		
本部設置			地震発生		
避難誘導訓練		10:00	10:30		
初期消火訓練					
・ポンプ 操法訓練			10:30	11:00	
・水消火器			10:30	11:00	
炊出し訓練					
救急救命訓練				11:00	12:00
反省会					12:15
解散撤収					12:30



8・9 評議員会、組長会での説明と参加要請

①評議員、組長会、各団体へ説明と参加要請を行う。

佐野自治会自主防災避難訓練について




【欠席の連絡】
当日、都合により、欠席される方は自治会事務所に連絡をお願いします。
後日、役割分担と詳細日程を連絡いたしますので、ご協力をお願いいたします。

②参加要領書の配布(参加者全員に配布)

佐野自治会自主防災避難訓練の参加要領

【欠席の連絡】
当日、都合により、欠席される方は自治会事務所に連絡をお願いします。

③全戸回覧で「避難訓練実施と自主参加」を呼びかける。

①-1訓練状況:災害本部設置

公民館を臨時避難場所として運営する






①-2災害本部設営

担当役割をゼッケンとして貼り付ける

【反省】両面テープで貼り付けたので途中で剥がれる事があった。







②-1避難誘導訓練・避難

10時の避難訓練開始合図により、誘導班は一時集合場所へ車椅子、避難ルートの地図を持って移動しました。





②-2避難誘導訓練・避難

- 誘導班長の点呼、避難行動要支援者を車椅子で避難。
- 法堂寺遺跡公園・NPOかじや館から自警団員の誘導で避難する。

車椅子を利用する






②-3避難誘導訓練・避難

自警団員が前後で安全を確認しながら避難する

隊列の前後の安全確認






平成29年度「自主防災活動成果発表会」事例発表

栗見出在家町一斉避難訓練

東近江市栗見出在家町自治会

自主防災
活動のつどい

自主防災
活動のつどい

訓練の目的

- ・暴風雨想定
 - ・永源寺ダムの大量放流で御幸橋の水位が氾濫危険水位を超過し決壊の恐れ有り、
 - ・ライフライン(電力・通信網)が断絶の状況下で全住民への**避難情報周知**と自主防災組織による**安否確認及び避難誘導**を目的とする。
- ・併せて、自主防災組織の各役割班相互の連携と、効果的な**活動の習熟**を図る。

自主防災
活動のつどい

自主防災
活動のつどい

訓練方法

- 8:00 サイレン音と同時に避難準備情報を公民館拡声器から発しこれを合図に**非常時連絡網**に則り防災会長⇒防災副会長⇒各組防災委員に連絡。
・防災委員は直ちに対策本部(一時避難場所＝明法寺)に集合。
・高齢者・一人での**避難困難者**を支援者が一時集合場所へ**誘導**。
- 8:10 一回目の安否確認開始
- 8:15 「**避難勧告**」を子民間公民館拡声器から発令、全住民が各組に定められた避難経路に従い一時避難場所(明法寺＝自治会内最高地所)に避難。
- 8:20 各組長がそれぞれに安否確認を実施し、対策本部に報告。
- 8:30 消防署員による講評、自治会長挨拶⇒解散

自主防災
活動のつどい

自主防災
活動のつどい



活動の具体的なポイント

1. 行動を逐一放送で説明し、参加者に知らせながら進めた
2. 避難準備情報での活動と避難勧告での活動を明確に分けた
 1. 避難準備情報＝高齢者・避難困難者の避難
 2. 避難勧告＝全住民の避難
3. 避難困難者の救援に、リヤカー搬送と車椅子搬送を行った
4. 避難完了の家は、避難時に黄旗を門前に掲げた
従来から避難完了の印として黄旗の掲示を行っている
5. 「東近江市備蓄の非常食」の試食を行った

自主防災
活動のつどい

自主防災
活動のつどい

今後の課題

1. 高齢者の避難に要する時間
 1. 昼間は移動できる距離が、夜間では同じ距離を移動できない
 2. 2階等の高所避難を訓練時にも取り入れ、災害時に備えたい
2. 自治会内避難で、どこまで持ちこたえられるかの検証が必要
 1. 災害規模別の対応
 2. 避難困難者ごとの具体的避難対応プログラムの検討
3. 早期避難の判断基準の検討
 1. 夜間になってからの避難準備情報では、避難が間に合わない
 2. 大雨警報発表時点での対応も視野に
 3. 近所・高所(2階)避難

自主防災
活動のつどい

自主防災
活動のつどい

避難完了の合図の黄旗



自主防災
活動のつどい

自主防災
活動のつどい

タオルを使った安否確認訓練

で全員参加を実現しよう

タオルを使った安否確認訓練

全員参加の安否確認訓練に協力を！

大災害が起きた時、ご近所の安否確認が早くできるかが、その後の救出・救助や避難行動に大きな影響を及ぼします。

つきましては、東近江地区自治会が準備されるお祭り（安否確認訓練）に全世帯のご参加をお願いいたします。万が一の事態に備えたいと思います。

「参加する」と思っても訓練がはじまったら「家の家は無事です!!」という合図として「玄関先にタオルを掲げる」だけです。

何分、訓練の準備まで運動いただきます。安否確認の要領にご協力くださいますようお願い申し上げます。

東近江地区自治会 防災訓練事務局

【訓練イメージ】

開始：「大規模地震発生!!」

・各世帯で自分の安全確保

・タオルを玄関口に掲げる

10分後：安否確認

・職員さんがタオルを確認に町内を回り

・対策本部（一時集合場所）へ報告する

・タオルの出していない車庫を再確認

30分後：報告

・自治会長が地区本部へ報告

東近江地区自治会 防災訓練事務局



タオル方式採用自治会の訓練参加状況

- ・ 全員参加が実現できた。
- ・ 全員参加の短時間確認が実現できた。
- ・ ほぼ全員が参加した。
- ・ ほぼ全戸の参加を得た。
- ・ 95%が参加した。
- ・ 90%がタオルを掲げていた。
- ・ 8割の参加を得た。
- ・ 75%がタオルを出していた。
- ・ 6割以上がタオルを掲示していた。
- ・ 最短で10分、最長で15分 で安否確認を終了出来た。
- ・ 思った以上にタオルが掛かった家が多かった。

まちづくり協議会は『タオルを使った安否確認訓練』を推奨します

- ・ **個人情報無用**
- ・ **タオルを掲げるだけで無事が判る**
(作業が単純)
- ・ 特別な用具が不要
- ・ 訓練への参加率が高まる
- ・ 安否確認の時間短縮ができる
- ・ 救援活動の開始が早められる

平成30年度の防災活動（案）

1. 自主防災活動リーダー研修会 6月初旬
 - ・ 自主防災組織の役割と行動
 - ・ 東近江市主催「防災リーダー養成講座」への参加者募集
2. 自治会単位の防災訓練 6月～11月
 - ・ タオル式安否確認訓練の推進（能登川地区全自治会採用へ）
3. 新防災音声端末機での全戸一斉防災訓練 9月(防災の日)
 - ・ シェイクアウト
4. 自主防災活動成果発表会 11月下旬
 - ・ 自治会事例発表
5. 地区共通課題検討会 月次開催

防災活動に関するワークショップ

1. タオル式安否確認 の メリット デメリット
2. 2階へ避難 の メリット デメリット
3. 災害時避難行動要支援者対策の進捗度と課題
4. 今年度及び来年度の防災活動へのご意見・ご要望

②-4 避難誘導訓練・避難報告

避難誘導班より誘導班長へ避難完了報告



誘導班員は一時集合場所からの避難完了を本部・誘導班長へ報告



自治体 消防本部 消防団

ホップ・ステップ・のどがわ

②-5 避難誘導訓練・避難報告

誘導班長は防災会長へ、全ての一時集合場所からの避難完了報告

法堂寺遺跡公園、NPOかじや館からの避難誘導の完了を防災会長へ報告



自治体 消防本部 消防団

ホップ・ステップ・のどがわ

②-6 避難誘導訓練・避難完了報告

自主防災会長は自治会長へ避難完了報告。
自治会長(統括)は避難誘導訓練の終了を宣言する



①自主防災会長は自治会長へ避難完了を報告

②自治会長は避難誘導訓練の終了を宣言・初期消火訓練の開始を指示



自治体 消防本部 消防団

ホップ・ステップ・のどがわ

③-1 初期消火訓練・自警団のポンプ操法

自警団員によるポンプ操法訓練を披露する。

整列点呼






自治体 消防本部 消防団

ホップ・ステップ・のどがわ

③-2 初期消火訓練・自警団のポンプ操法

自警団員によるポンプ操法訓練を披露する。

大門川より水を確保・放水






自治体 消防本部 消防団

ホップ・ステップ・のどがわ

③-3 初期消火訓練・自警団のポンプ操法

ほとんどの自治会員が初めて見る自警団員のポンプ操法にビックリ、安全安心を確信しました！




自治体 消防本部 消防団

ホップ・ステップ・のどがわ

③-4 初期消火訓練・水消火器訓練

女性を重点的に消火器の取扱いに挑戦して頂きました。

消防署 水消火器訓練

カッパ・アサギのどがわ

④ 炊出し訓練

いきいきサロンのメンバーにより、おにぎりの炊出し訓練をして頂きました。

お米6升 おにぎり240個を準備
訓練終了後に配布した

消防署 炊出し訓練

カッパ・アサギのどがわ

⑤-1 救急救命訓練の受講

消防署員の指導で救急救命指導を受ける

消防署 救急救命訓練

カッパ・アサギのどがわ

⑤-2 救急救命訓練の受講

消防署員の指導でAEDの指導を受ける

消防署 AED訓練

カッパ・アサギのどがわ

⑥ 給水設備点検

自家発電機を使い、家庭の地下水ポンプを稼働させ水を確保する設備です。

発電機2.3KVA×2台保有
デモ運転行う

消防署 給水設備点検

カッパ・アサギのどがわ

★訓練を実施して

【良かったこと】

1. 自主防災会設立後、初めての訓練実施であり、実質的活動のスタートができたことで、自治会員に会の存在と趣旨を理解してもらえた。
2. 訓練参加者を限定し、出席の可否を事前に打診することで、参加意識の向上となったと思われる。本当に参加してくれるのか？の不安が一掃できた。
3. 評議員、組長は毎年交替するため、100名程度の規模で毎年実施し経験者を増やしていくことが防災意識の向上につながると思う。
4. 自警団員の訓練を披露することで、団員が地域の安全安心の一翼を担っていることをPR出来た。(若い人、自警団に入会してね！)

【反省点】

1. 災害発生時間直後に点呼し、その後に避難者が来るなど実態把握が出来なかった。(避難する時間をみてよー！のご意見)
2. 一般回覧でも呼びかけたが15名程度で少ない。(世帯数の多い自治会の悩みか！)
(訓練参加者指名で経験者を増やす方法しかないのか！)
(どうすれば一般自治会員の参加者を増やせるかが今後の課題！)

初回にしては大成功、継続して行こう！

消防署 訓練実施

カッパ・アサギのどがわ